忠類村 その想い出

空から見た夏の忠類村

概要

■**位置**

忠類村は十勝平野の南部にあって、北海道の背骨といわれる日高山脈を一望にできる北緯四二度三三分、東経一四三度一八分に位置しています。

東と南は大樹町、西は更別村、北は幕別町と豊頃町に接しており、帯広市へは約五〇kmの位置にあります。

■**地勢**

村の南方を除く東・西・北部の三方が、森林資源の豊富な標高

空から見た冬の忠類村

歴史

波の立つ沼川 チュウルイベツ

忠類発祥の地碑

忠類村の開拓の歴史は、明治二十七年五月群馬県人の岡田新三郎が丸山南麓に入植し開拓の鍬をおろしたのが始まりです。

昭和二十四年八月に大樹村から分村して、現在の忠類村が生まれました。分村当時は、生活基盤となる施設はほとんど整備されていませんでしたが、その後、住民のたゆみなき努力により、着実な発展を遂げ、酪農を基幹産業とした緑豊かな農村になりました。

「忠類」の名はアイヌ語の「チュウルイベツ」からつけられたもので、「波の立つ沼川」または「急流」とされています。

丸山

水芭蕉

ひまわり

自然

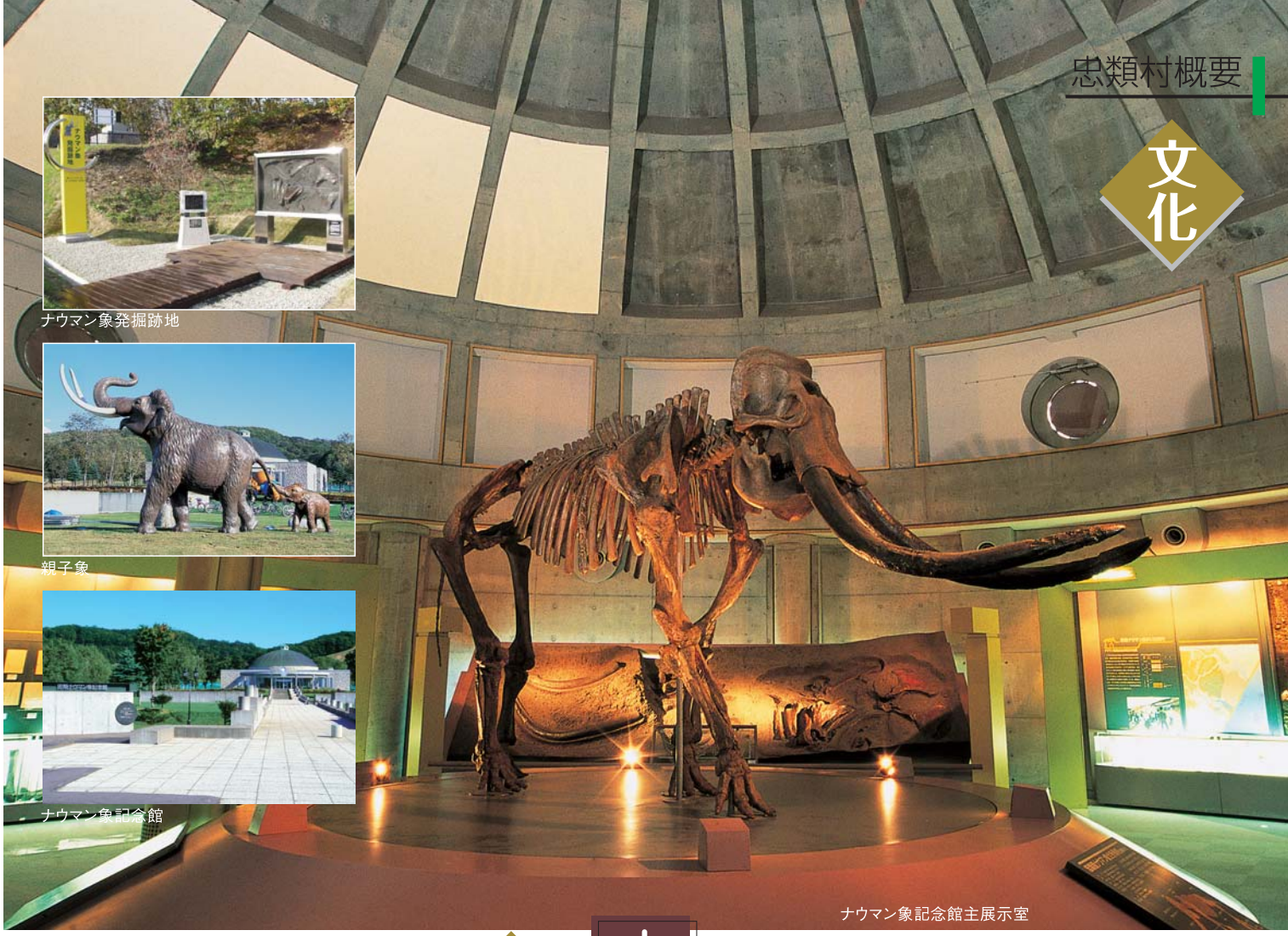
二〇〇mから三〇〇mの丘陵地からなる緑豊かな自然に恵まれた村です。村の東西の距離は二六・五km、南北は一九・五kmで一三七・五四km²の面積があります。また、村の中央部を当縁川が流れ、その流域と西部地区を中心に約五、〇〇〇haの農耕地が広がっています。

■気候

十勝のやや中央寄りにあることから大陸的な気候を示し、降水量の少ないカラッとした天気の日が多く、特に冬期間は晴天の日が続きます。夏には沿岸の影響をうけて霧が発生することもありますが、平年の八月の平均気温は約二〇度、二月はマイナス一〇度前後となります。

ナウマン公園

文化



ナウマン象発掘跡地

親子象

ナウマン象記念館

ナウマン象記念館主展示室

忠類村 その想い出

暮らし

村の基幹産業は昔も今も農業です。酪農は、村の人口の四倍の約七、〇〇〇頭の乳牛が飼育されています。また、畑作では、てん菜や馬鈴しょの他、村の特産物の食用百合根が栽培されています。

開村以来、より快適な生活環境づくりが懸案でしたが、農業集落排水事業による下水道の整

ナウマン温泉アルコ236

大浴場

フロント

医療

診療所

診療所受付

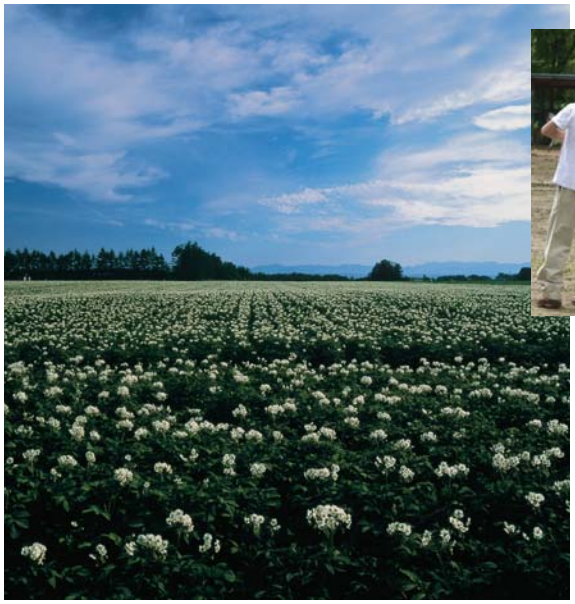
健康

ふれあいセンター福寿

ふれあいセンター福寿ロビー

産業

牧場


いも畑

品評会

小麦の収穫

祭り

ナウマン全道そり大会

どんとこい村祭り・ナウマン太鼓

盆踊り大会

備や公営住宅の建設など、居住環境も整備されてきました。

人が幸せで安心できる生活を送るためには、健康であることが第一です。「ふれあいセンター福寿」を中心に、診療所や歯科診療所と連携しながら、住民の健康づくりが進められてきました。また、温泉入浴施設の「アルコ236」や「パークゴルフ場」も、住民の健康づくりに大きな役割を果たしています。

ナウマン象の化石の発見は、日本中の注目を集めたばかりでなく、「ナウマン象記念館」の建設により、村おこしの起爆剤にもなりました。昭和四十九年に創作された「ナウマン太鼓」は、本村の郷土伝統芸能として保存・継承されています。

学校給食風景

教育

小学校入学式

小学校運動会

中学校体育祭

忠類村 暮らしの資料

その想い出

大地に愛され
夢あふれる街。

村の木「シラカバ」

村の花「シバザクラ」

村民憲章の碑

昭和52年8月にコミュニティセンター前の広場に同センターの完成を記念して建設された。

拓魂の碑

昭和54年8月にコミュニティセンター前の広場に、開村30周年を記念して先人の労を称えて建設された。

■人口と世帯数の推移

分村当時（昭和24年10月1日）

総人口 3,096 人
世帯数 534 戸

男1,564人　女1,532人

合併時（平成18年2月5日）

総人口 1,854 人
世帯数 741 戸

男881人　女973人

※資料:住民基本台帳等